

第8回あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会 議事概要

■開催日時：令和7年6月5日（木）13:30～15:30

■開催場所：高知城ホール 大会議室

■出席委員：黒笹会長、岡村副会長、坪井委員、百田委員、西脇委員、林委員、西内委員、吉村委員

■議事：

（1）本年度の取組について（資料1～2に基づき県、市町村から説明）

○観光・高知県への集客に関する意見

- ・高知県の観光体験メニューの中でもあゆ釣り体験が実施されている。この体験メニューについては鮎屋仁淀川の西脇氏が主体的に実施しているが、もっと県全体として組織的に体験メニューを実施する体制ができれば、より効果的だと感じた（黒笹会長）
- ・あゆ釣り体験の人手について、体験者が増えガイドが足りない状況だが、体験に来てくれた方々に新しくガイドになってもらうなど、人手不足解消に努めている（西脇委員）

○資源・環境に関する意見

- ・カワウ対策について、カワウ対策検討会でも幼鳥の駆除が効果的であるといった話を聞いており、ドローンを活用しコロニーを見つけることが効果的ではないかと感じた（吉村委員）
- ・カワウ対策としては各都道府県のおかれた環境次第で対策手法が異なる。高知県は銃の使用可能な場所が豊富だが、カワウは危険を察知し人間が立ち入れない場所に移動してしまうため、銃が使用できない場合もある。その場合にはドローンを活用した対策が有効となる。ドローンを使用しカワウの巣にドライアイスを投入する方法もあるが、非常に難易度が高いことから、通称「ヒナ撃ち」とよばれる、巣立つ寸前のヒナ（幼鳥）を撃つことが個体数管理には効果的。また、カワウは頭がよく、対応に失敗すると今後の対策が非常に難しくなる可能性があることから、各自が独自にカワウ駆除を実施するのではなく、行政や野鳥の会、猟友会等に事前に相談し、情報共有を図りながら科学的に対策を進めることが重要と考える（坪井委員）

（2）作業部会の取組について（資料3～5に基づき事務局から説明）

○流通販売部会について

- ・冷凍技術の向上について、新たな冷凍技術を導入するにはお金がかかる。冷凍技術の導入にかかる資金的支援も一緒に提案いただきたい。
- ・冷凍技術の導入にかかる支援制度については、他部署の事例等も収集し、情報提供する（山下部長）
- ・冷凍代行サービスなど、冷凍設備を共有できるようなサービスが必要となるのではないかと感じた（黒笹委員）
- ・アユを取り扱う飲食店で個別に導入するのはどうか。加工事業者としてはアユの冷凍のためだけに新たに冷凍設備を導入（一定期間しか稼働する見込みのない設備への投資）する

ことは非常に難しい（西内委員）。

- ・県内では集落活動センターで共同加工場を設置した事例がある（西脇委員）
- ・県外でも共同加工施設で味噌等を作っている事例がある（百田委員）

○資源・環境保全部会について

- ・水質や河川環境とアユの食味のかかわりについて、専門家を交えながら勉強会をしたいと考えている（百田委員）
- ・西土佐地域は本流以外に大きい支流が3河川ある。四万十川も上流、中流、下流でコケの生え方も違っており、アユの味も違ってくる。釣り人が各釣り場のあゆを食べて、各釣り場ごとの食味の違いをかんじてもらい、情報発信してもらえたらうれしいと考えている（林委員）
- ・アユイングについて、実際にアユイングが可能な場合と不可能な場合の条件等についての見極めがついてきているのか気になる。また、全国的なアユイングの優良事例（黒笹会長）
- ・アユイングについて、四万十川では竿の長さ等の制限があると聞いている。仁淀川では友釣り専用エリア以外ではアユイングを解禁している。ただ、アユイングはトラブルの原因となるため避けてほしいといった河川もあると聞いている（吉村委員）
- ・相模川では友釣り人口よりもアユイング人口の方が多い。また、岐阜県の和良川も今年から一部支流でアユイングが解禁との情報があり、友釣りのアユと同様に買い取りしてもらえるとといった話も聞いている。小規模な支流、あるいは河畔林が川面を覆うような友釣りに適さないエリアでもアユイングであれば実施可能といったメリットがある（坪井委員）

（3）その他（100年フードに関する事項）に関する意見

- ・文化庁が実施している100年フードの認定事業について、今年も募集があった場合は、当協議会で高知県のアユの食文化を申請したい。また、申請の際は委員と事務局に申請書類の作成を一任させてほしい（百田委員）
- ・認定されるよう頑張っしてほしいと思う（黒笹会長）

（4）総括意見（岡村副会長）

- ・現在実施している取り組みについて、取り組んだ結果どうだったのかといった振り返りも大事であると感じた
- ・海外へのアユの普及、販路開拓といった取り組みが無いと、今後は検討してもよいかと考える
- ・冷凍商品については市場でも受け入れられるのか、他県でも冷凍アユの出荷事例があるのか、しっかり情報収集が必要
- ・第2期がもうすぐ中盤にさしかかる、次のステップに向け主に注力する部分をしっかり考える必要がある
- ・岐阜県の取り組みにも負けないような先進的な取り組みも実施できればと考える

以上